

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0495400426		
法人名	有限会社朋悠生活研究舎		
事業所名	グループホームあかね	ユニット名	わかば
所在地	宮城県仙台市太白区金剛沢1丁目3-15		
自己評価作成日	令和 4 年 12 月 20 日		

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 介護の社会化を進める一万人市民委員会宮城県民の会		
所在地	宮城県仙台市宮城野区榴岡4-2-8 テルウェル仙台ビル2階		
訪問調査日	令和 5 年 2 月 16 日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>コロナウィルスの感染がなかなか治まらず、施設の活動が制限されながらも、利用者、職員が生活を共にしながら楽しく過ごしています。コロナ感染に見舞われることもありましたが、職員の一致団結したチームワークで、なんとか乗り切ることができました。5人の利用者が入居されていますが、内3名が男性で、男性利用者が多いことが大きな特徴です。男性も女性も、お互いが笑顔で楽しく過ごせるユニット作りに入力しています。また、年配者でも安定して働けて、皆と生活を築いていける職場を目指しています。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>ホームは、国道286号線の西多賀二丁目交差点から三神峯公園方向に約1.5kmの所に位置している。周辺には小学校や郵便局、病院等が点在する住宅街である。コロナ禍で地域住民と直接交流をする事が困難であったが、入居者は窓から行きかう人達や子供達と手を振りあっていたのが癒しとなった。日々ラジオ体操や風船バレー等のレクリエーションで体を動かしたり、家事作業の手伝いをする事で、理念に沿った「その人らしい生活と穏やかで楽しい一日を送れるように支援します」を実践に繋げている。目標達成計画に掲げていた3つの項目については、いずれも適切な取り組みを行い達成した。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで身体や精神の状態に応じて満足出来る生活を送っている。 (参考項目:36,37)	66	職員は、やりがいと責任を持って働いている。 (参考項目:11,12)
60	利用者の意思を出来る限り尊重し、外出等の支援をする努力をしている。 (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、医療機関との連携や、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

2.自己評価および外部評価結果(詳細)(事業所名 グループホームあかね)「ユニット名 わかば 」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	グループホームの在り方や、認知症の勉強会を行うことで理念に沿った施設の在り方や支援を学べている	理念の「真心をこめて、その人らしい生活と穏やかで楽しい一日を送れるように」は、ホームが目指すケアのあり方について、職員間で話し合うきっかけとなり、今年度も継続する事とした。ホールの壁に大きく掲示している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍の為、積極的な交流は行えていないが、利用者との近所の散歩の際に挨拶を交わす程度の交流は継続できている	町内会に加入している。近隣住民とは地域のゴミ集積場の使用時や回覧板等で顔見知りである。コロナ禍以前は、小学校の児童達がホーム見学や楽器演奏で来訪し交流をしていた。入居者は、子供達との再会を楽しみにしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	具体的には行えていないが、交流を通して地域に向けた発信を行いたい		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍により、以前のように集まることは自粛しているが、書面により定期的な報告を行っている	年6回、地域包括支援センター所長や町内会長、家族代表者に入居者の生活状況や運営状況を送付し書面会議とした。メンバーから「日々の業務お疲れ様」等の労いの返信があったり、包括から空室状況の問い合わせ等があった。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	積極的な関係の構築は行えていないが、利用者の生活やケアの内容で相談を持ち掛けることがある	保健所から、コロナ感染予防対策に関して、防護服や手袋等の扱いについて相談や助言を貰った。介護認定申請代行や生活保護の申請、入居後の生活用品の購入について相談に出向いたり、電話で相談をした。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定期的に身体拘束防止の研修を行っている。理解の度合いは職員によって違うため、今後も力を入れて取り組みたい	年4回、身体拘束虐待防止委員会を開催している。玄関ドアは夜間帯のみ施錠している。帰宅願望がある入居者について検討し、散歩やドライブに誘う、好きな台所仕事をお願いし終わったら感謝の気持ちを伝える等の対応策を、職員間で共有し支援をしている。	
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	委員会を作り、虐待防止に取り組んでいる。定期的に勉強会を行うことで、知識・技術の習得に努めている	職員は年1回自己チェック表を提出し、結果を委員会で話し合っている。毎日のケアがその場対応になっていないか等の課題が出た。その方にあった適切なケアに努めている。管理者は、何時でも話を聞ける環境作りをしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を利用している利用者があるので、基本的な理解はあるが、日常生活自立支援事業とともに、より深く学ぶことができるようにしたい		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	特に問題なく行えている。疑問に思うことがあれば入居前だけに限らず、入所後でも都度対応している		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	いつでもご意見や要望に対応できるよう、苦情窓口や意見箱を設置している	面会時や通院で来訪した際に、意見や要望を聞いている。1階と2階で入居しているご夫婦を、時々合わせて欲しい等の家族の要望に対応している。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員と個人面談を行い、一人一人の意見や提案などの聞き取りを行っている。またミーティングでも個々の意見を取り入れて業務に活かしている	普段の業務の中やミーティング時に意見や要望を聞いている。入居者の体位交換時に使用する「三角枕」の購入要望があり検討中である。初任者研修の経費負担や勤務時間の調整を行っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員一人一人の勤務状況や仕事に対する努力などを把握し、環境整備に努めている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	コロナ禍により、外部研修を受ける機会は少ないが、定期的な内部研修や勉強会は実施している。また、初任者研修の受講にも力を入れている		
14	(9)	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内の事業所同士での交流は行えているが、コロナ禍により、外部との接触は少なくなっている	他の施設から講師を招き「認知症の方のできる生活」等の勉強会を開催し、グループホームとしての役割や介護職員としての在り方等を学んだ。調剤薬局の薬剤師に、入居者の投薬方法などについて相談をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	まずはコミュニケーションを深め、信頼関係が作れるよう努めている。生活を通し、訴えや要望を傾聴することでニーズを探り、対応している		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前の状態や環境等の情報の共有を大切にして、それぞれの家族に合った対応に心がけています		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	グループホームだけのサービスにこだわらず、多職種によるサービスを希望される時は、相談に乗り利用に繋げている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者個人の「何ができるか」を皆で観察、検討して、掃除や洗濯等の生活の場面を通して共同生活づくりを行っている		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナ禍ではあるが、密にならない環境での面会や、電話等で、本人と家族の交流を継続して、共に本人の支えとなるよう心がけている		
20	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍により、外部との交流や、主だった外出は控えているが、本人との関りの中で思い出話や、大切な記憶の人や場所の話に耳を傾けている	家族との面会は、玄関先ではあるが継続している。年末年始に外泊をして家族と一緒に正月を過ごした方がいる。天気が良ければ近所の天沼公園へ散歩に行っている。2ヵ月ごとに馴染みの床屋が来訪している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人で過ごす事が好きな利用者には、負担にならない程度に関りづくりを行う。利用者同士の間を取り持ち、お互いがコミュニケーションを取れる工夫を行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	機会がある毎に、その後の様子をお聞きして経過の把握に努めています		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	会話や食事の好み、趣味など、生活のスタイルを把握できるよう努めています。会話が困難でも、入所前の様子や家族のお話し等から本人像の把握に努めています	職員や入居者同士の日常の会話の中で、やりたい事や行きたい所等の思いを汲み取っている。居室で趣味のハーモニカを吹いたり、調理をしたり、食器洗い等の手伝いをしたり、入居者の思いが叶えられるよう支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前から、個々の暮らし、生活の様子、環境等が把握できるよう努めています。入所後も本人との会話や、家族を通して、幅広く知ることができるように努めています		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	こちらから一方的に生活スタイルを作らず、個人の好みや状態に合わせて生活して頂く事で、暮らしの意向を把握できるよう努めています		
26	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族、主治医の意見や、本人の希望を大切にしています。ミーティングでの職員間のアイデアを活かし、個々の状態に添うよう心がけています	モニタリングは毎月行い、担当職員から状態の変化や気付いた事を聞き、ケアに活かしている。3か月毎にプランの見直しを行い、体調の変化時には随時行っている。医師の助言で消化の良いミキサー食への変更をプランに入れた。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子は、朝、夕に必ず職員間で報告し合い、気づいた点は検討を行います。またケアの工夫による成功例や失敗例等も話し合いながら、介護計画の作成や見直しに活かしています		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	訪問リハや訪問歯科、理容等、家族の要望や本人の状態に合わせて対応できるよう取り組んでいます		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源の把握には努めているが、コロナ禍の為、人的交流などの協働はあまり行っていない		
30	(13)	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所前から繋がりのある主治医や医療機関を大切に、施設の都合に合わせた一方的な連携は行っていない。入所後の本人の状態に合わせて相談している	訪問診療を月2回、5名の方が受診している。他の方は職員同行で、協力医を受診している。専門医への受診は家族対応である。家族の事情で職員が同行する事もある。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	施設に看護師は常駐していないので、医療的な観察が求められるような症状に対しては、法人内の看護師に相談する等して対応している		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院後は、病院の相談員やご家族から情報を得ることで現状の把握に努めている。積極的な関係作りは、普段あまり行えてなく、今後の課題です		
33	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	早い段階ではなかなか話が行えてなく、状態に応じた話し合いになることが多い。主治医や家族と直接話をする機会を作ることも大切に、方針や方向性が共同で作れるよう努めている	入居時に「重度化対応に関する指針」を説明し、段階的に家族や医師、職員と話し合いを行っている。「看取りケアのポイント」が明文化されている。管理者が講師となり看取りケアの勉強会をし、心のケアのグループワークをしている。昨年2名の看取りがあった。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的な訓練等はあまり行っていない。職員の練度はまちまちなので、これからも実践力の習得に努めていく		
35	(15)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災訓練等、災害の避難対策や訓練は定期的に行っており、消防署の派遣による合同訓練も行っている	夜間想定を含む年2回、火災や地震等の災害訓練を実施した。地震時の「シェイクアウト訓練」で、身を低く、頭を守り、動かないの3つの安全行動を実践した。背の高い入居者が、テーブルの下に潜るのは困難等の意見があった。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(16)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	勉強会を通して利用者の接遇等を学ぶ機会 は作っているが、職員の資質や理解度はそ れぞれ違うため、今後も継続して学びの機 会を設けていく	入居者を呼ぶ時は、「さん」付けである。丁寧な 言葉を使い、慣れ合いにならないよう心掛けて いる。居室に入る時は、ノックし声掛けをして いる。失禁時は「ちょっと歩きますか」と声掛 けを工夫し、トイレ等に誘導をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自 己決定できるように働きかけている	無理な外出や入浴、レクリエーションの参加 を強要せず、都度声掛けを行い、本人の自 己決定を尊重するよう努めている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一 人ひとりのペースを大切にし、その日をどのよう に過ごしたいか、希望にそって支援している	無理なく個人の状態やペースに合わせて生活 して頂けるよう心がけています。今後も本人 の希望を引き出して生活に取り入れるよう 努めたい		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう に支援している	本人の希望を大切に、こちらから一方的 に決めることのないようにしています		
40	(17)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好 みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準 備や食事、片付けをしている	一人一人の力を活かしながら、調理、準備、 片付けなどを一緒に取り組んでいます。今 後も皆で、一緒に、楽しくできるよう継続して いきます	献立は入居者の要望も踏まえ、職員が作って いる。栄養バランス等は保健師に相談をして いる。入居者がお好み焼などを作ったり、月1回 のテイクアウト弁当の日もある。秋は芋煮会、 正月はお節など季節毎の料理を提供している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて 確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に 応じた支援をしている	栄養バランスを考えた献立作りを皆で行い、 摂取状態に合わせて、常食以外にも刻みや ミキサー食を提供しています		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一 人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケ アをしている	夜間は就寝前に口腔ケアや義歯洗浄がお おむねできているが、日中は声掛けや確 認、介助ができていないことがある		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(18)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	チェック表に記録することで、個々の排泄の状態を把握している。無理にオムツ等を使うことなく、ADLや排泄の様子を見ながら支援を行っている	水分摂取量や排尿、排便周期は排泄チェック表で把握している。時間や入居者のそれぞれの様子を見て、トイレ誘導をしている。業者を招き「パッド使用」についての勉強会を行い、その人に合ったパッドのサイズ等を学んだ。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個人の状態を記録して、排便の状態を把握しています。運動や水分補給にも気を配り、スムーズな排便が促せるよう取り組んでいます		
45	(19)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた支援をしている	週二日以上の入浴をして頂く。拒否される時は、時間やタイミング、日を変えてお誘いし、無理なく入浴ができるよう心がけている	入浴は週2回としているが、希望に応じて毎日入浴する方もいる。脱衣所や浴室は、エアコンで温度管理し、お湯の温度等は入居者の好みに応じている。浴槽マットを使用し安全に配慮している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の状態やペースに合わせて過ごして頂きます。湿度、室温、室内照明の明るさにも気を配り、安眠できる環境づくりを心がけています		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬局との繋がりを大切にして、薬の内容や効能、量を詳しく把握できるよう努めています。また主治医の意見や指示も参考にし、薬による眠気やふらつき等の観察を行っています		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	行事食や日々のおやつ、日々のレクリエーションなど、毎日の楽しみを考えながら支援を行っています。コロナ禍ではあるが、近所の散歩は継続し、気分転換を図っています。		
49	(20)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ感染の流行で、あまり外出ができていないが、近所の散歩や室内の運動は続けています。それぞれのユニットを歩き来することでお互いの交流にもなっています	天気が良い日は、近所の天沼公園やホーム周辺を散歩している。ホームのワンボックスカーに乗り、リング狩りに行ったり、弁当持参で三神峯公園へピクニックに行くこともある。少しでも外に出る機会を増やし、気分転換を図る工夫をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	コロナ禍の為、以前のように、職員と利用者が一緒に買い物に行くことができていません。望むものがあれば職員が買い物に行き、代金は立て替えで対応しています		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話を希望される利用者には、相手の時間の都合を考慮の上、かけるようにしています。ご家族から電話があった時も、会話を楽しんで頂けるよう支援しています		
52	(21)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感を感じて頂けるよう、旬の食材の行事食を提供しています。また、飾りつけなども、季節に合わせて取り入れています	ホールには大きな窓があり、明るく居心地の良い雰囲気である。食事やラジオ体操などをし、入居者の寛ぎの場となっている。七夕やクリスマス等、季節のイベントに合わせた飾りつけをして楽しんでいる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブルを囲んでお話しやレクリエーションをしたりする時間、一人で過ごせる時間を一日を通して設けています。入居者同士の関係を考慮しながら、テーブルの配置にも気をつけています		
54	(22)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所前から使い慣れたものを継続して使って頂く事で、少しでも気分よく過ごせるようにしています	電動ベッドやエアコン、洗面台、カーテン、物干し竿が備え付けられている。使い慣れた筆筒や椅子、テーブル、位牌、遺影を持ち込み、家族の写真飾って自分らしい居室になっている。読書やパソコンをして個々に過ごしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	日々、職員と一緒に食事の準備や片づけ、洗濯物たたみや掃除などを行うことで生活感が維持できるよう取り組んでいます		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0495400426		
法人名	有限会社朋悠生活研究所		
事業所名	グループホームあかね	ユニット名	菫
所在地	宮城県仙台市太白区金剛沢1丁目3-15		
自己評価作成日	令和 4 年 12 月 20 日		

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 介護の社会化を進める一万人市民委員会宮城県民の会		
所在地	宮城県仙台市宮城野区榴岡4-2-8 テルウェル仙台ビル2階		
訪問調査日	令和 5 年 2 月 16 日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

採光が取れる明るいホールで日々過ごせています。2階窓から見える景色、天気、下を歩きかう人々の様子を眺めていると、ついつい散歩に行きたくなるようです。このユニットの入居者は全員女性であることが一番の特徴です。年齢の差はありますが、みな輪になって座り、歌や談笑を楽しんでいます。女性ならではの経験を活かした、食事作りや準備、片付けなどを職員と一緒に行うことで、入所してから生活感を維持できるよう取り組んでいます。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは、国道286号線の西多賀二丁目交差点から三神峯公園方向に約1.5kmの所に位置している。周辺には小学校や郵便局、病院等が点在する住宅街である。コロナ禍で地域住民と直接交流をする事が困難であったが、入居者は窓から行きかう人達や子供達と手を振りあっていたのが癒しとなった。日々ラジオ体操や風船バレー等のレクリエーションで体を動かしたり、家事作業の手伝いをする事で、理念に沿った「その人らしい生活と穏やかで楽しい一日を送れるように支援します」を実践に繋げている。目標達成計画に掲げていた3つの項目については、いずれも適切な取り組みを行い達成した。
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで身体や精神の状態に応じて満足出来る生活を送っている。 (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、やりがいと責任を持って働いている。 (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者の意思を出来る限り尊重し、外出等の支援をする努力をしている。 (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、医療機関との連携や、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

2.自己評価および外部評価結果(詳細)(事業所名 グループホームあかね)「ユニット名 萩 」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	皆で話し合いをして作った理念を掲げることで、全職員への周知を図っている。ただ、普段から理念について話し合うような機会はないので、理解を深める機会を作りたい	理念の「真心をこめて、その人らしい生活と穏やかで楽しい一日を送れるように」は、ホームが目指すケアのあり方について、職員間で話し合うきっかけとなり、今年度も継続する事とした。ホールの壁に大きく掲示している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	コロナ禍の為、地域内の交流は少なくなったが、事業所の備品を近所の店で購入したり、挨拶を交わす程度の交流は続けている	町内会に加入している。近隣住民とは地域のゴミ集積場の使用時や回覧板等で顔見知りである。コロナ禍以前は、小学校の子供達がホーム見学や楽器演奏で来訪し交流をしていた。入居者は、子供達との再会を楽しみにしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域での交流が少なくなっており、事業所の活動や、実績を伝える機会が少なくなっている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の、施設での開催はコロナ禍の為行えていない。書類の郵送で、施設の活動を伝え、意見等を頂いている。	年6回、地域包括支援センター所長や町内会長、家族代表者に入居者の生活状況や運営状況を送付し書面会議とした。メンバーから「日々の業務お疲れ様」等の労いの返信があったり、包括から空室状況の問い合わせ等があった	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	保護課の担当と連絡を取り合う機会は多く、入居者についての相談や報告、事務手続き等のやり取りを行う	保健所から、コロナ感染予防対策に関して、防護服や手袋等の扱いについて相談や助言を貰った。介護認定申請代行や生活保護の申請、入居後の生活用品の購入について相談に出向いたり、電話で相談をした。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束や虐待の勉強会を通して、入居者の対応や接遇を学ぶ。ヒヤリハットなどを利用して拘束や虐待を防ぐよう努めている	年4回、身体拘束虐待防止委員会を開催している。玄関ドアは夜間帯のみ施錠している。帰宅願望がある入居者について検討し、散歩やドライブに誘う、好きな台所仕事をお願いし終わったら感謝の気持ちを伝える等の対応策を、職員間で共有し支援をしている。	
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束・虐待防止委員会を設置しており、定期的な勉強会を行っている。ヒヤリハット等を活用して、普段のケアを振り返りながら、自分たちの在り方を見直している。	職員は年1回自己チェック表を提出し、結果を委員会で話し合っている。毎日のケアがその場対応になっていないか等の課題が出た。その方にあった適切なケアに努めている。管理者は、何時でも話を聞ける環境作りをしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	このユニットでは生活保護以外の制度を利用している利用者がいない。他の制度について触れることはあまりなく、話し合うことが少ない		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分に時間を取って、契約等の話ができるよう努めています。一方的な説明にならないよう、心がけています		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置して、要望や意見を頂けるようにしています。他にも、家族の来所時に要望を伺うことでサービス提供の参考にしています	面会時や通院で来訪した際に、意見や要望を聞いている。1階と2階で入居しているご夫婦を、時々合わせて欲しい等の家族の要望に対応している。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	より良い環境となるように、ミーティング等で職員の意見交換ができています。個々との面談等、話の場を作ってくれて、職員のストレス軽減に配慮して頂けてます	普段の業務の中やミーティング時に意見や要望を聞いている。入居者の体位交換時に使用する「三角枕」の購入要望があり検討中である。初任者研修の経費負担や勤務時間の調整を行っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	向上心を持って取り組めるよう、常に上司と相談できる環境が整っています。個々の事情に合わせて、無理のない労働時間で勤務ができています		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	専門知識を高めるため、認知症の研修や初任者研修の受講に力を入れています		
14	(9)	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会に加入しているが、コロナ禍の環境で、参加や交流の機会はほとんどありません。相互訪問はありませんが、他事業所から講師を依頼し、勉強会等を行っています	他の施設から講師を招き「認知症の方のできる生活」等の勉強会を開催し、グループホームとしての役割や介護職員としての在り方等を学んだ。調剤薬局の薬剤師に、入居者の投薬方法などについて相談をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前の生活の様子や情報を本人や家族から伺い、入所後の生活が安心・安全になるよう情報を共有し、関係作りに役立っています		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の事情に配慮しながら、サービスの利用が開始できるよう努めています。入居後は本人の様子を伝え、家族の意向にも耳を傾けながら関係作りに努めています		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	金銭の管理、日用品の購入、主治医の送迎等、必要に応じて相談に乗り、総合的なサービスが開始できるよう努めています		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は、共同生活を行う場所であることの意識を持ち、日常生活で本人の「できること」を大切にしています。利用者と、一緒に生活することを考えながら関係性を築いています		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナ禍で、直接会う面会は少ないが、電話での対応やお手紙等で、本人に安心できる支援を協力して頂いている		
20	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	近所にある、馴染みの理美容室や電気屋など、付近を散歩することで、土地勘を忘れることなく過ごせている	家族との面会は、玄関先ではあるが継続している。年末年始に外泊をして家族と一緒に正月を過ごした方がいる。天気が良ければ近所の天沼公園へ散歩に行っている。2か月ごとに馴染みの床屋が来訪している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の性格や相性に配慮しています。トラブルにならないよう職員が間に入ったり、お互いが過ごしやすい席の配置などに気を配っています		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	相談等があれば応じますが、特にこちらから退所後の様子を伺うようなことはあまりありませんでした		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員それぞれが担当を持ち、独自の介護計画作りを行っています。日々入居者と接しながら、希望や意向に添って必要な支援を検討します	職員や入居者同士の日常の会話の中で、やりたい事や行きたい所等の思いを汲み取っている。居室で趣味のハーモニカを吹いたり、調理をしたり、食器洗い等の手伝いをしたり、入居者の思いが叶えられるよう支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族や本人とお話を通し、その人の在り方を引き出せるよう努めています。フェイスシートやミーティングで職員間の情報の共有を行い、個人の生活歴などの把握を行っています		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	チェック表を使うことで、日々のバイタルや排せつの様子、食事量が分かるようになっています。さらに個人記録や申し送り、ミーティングを通して、日々の様子が把握できるよう努めています		
26	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	現場の職員一人一人が担当を持ち、支援の目標を立てることで、より本人の日常生活に沿った支援内容になるよう努めている。また家族の意見が計画に反映するよう、来所時に意見を伺っている	モニタリングは毎月行い、担当職員から状態の変化や気付いた事を聞き、ケアに活かしている。3カ月毎にプランの見直しを行い、体調の変化時には随時行っている。医師の助言で消化の良いミキサー食への変更をプランに入れた。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	申し送りやミーティングで意見交換や検討を行うことで、実践や介護計画の見直しに活かしています。個別記録は、もっと記録内容が充実できるよう、取り組みたい		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	協力医院との関係を活かした、定期の歯科検診や、コロナ禍で外出や外食ができないが、駐車場を使った食事会など、利用者の支援に工夫をしています		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	学校や公園、店、町内会など、利用者を取り巻く人や場所を把握し、支援に努めているが、コロナ禍の為、面会や外出は自粛しています		
30	(13)	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族や本人の希望を尊重しながら医療に繋がるようにしています。また、本人の状態に合わせて家族と相談し、主治医の受診が継続して行われるよう努めている	訪問診療を月2回、5名の方が受診している。他の方は職員同行で、協力医を受診している。専門医への受診は家族対応である。家族の事情で職員が同行する事もある。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	事業所に看護師はいないので、利用者の様子に変化がある時や、具体的な症状がある時は訪問診療の看護師に相談することで、医療面の支援を行っています		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	普段から具体的な関係作りはあまり行っておらず、今後の課題です。入院時は病院関係者との連携に積極的に応じ、退院がスムーズに行えるよう努めています		
33	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に説明を行い、施設の現状や方針を理解して頂けるよう努めている。早い段階とは言えないが、主治医との連携を図りながら状態に合わせて話し合いを行っている	入居時に「重度化対応に関する指針」を説明し、段階的に家族や医師、職員と話し合いを行っている。「看取りケアのポイント」が明文化されている。管理者が講師となり看取りケアの勉強会をし、心のケアのグループワークをしている。昨年2名の看取りがあった。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や入居者の事故発生時の訓練や勉強会はあまり行っておらず、今後の課題です		
35	(15)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	コロナ禍の為、地域との交流は少なくなっており、以前の様な、地域の人々に参加を促すような訓練は行っていない。施設訓練は継続して行っており、職員に少しずつ身につけている	夜間想定を含む年2回、火災や地震等の災害訓練を実施した。地震時の「シェイクアウト訓練」で、身を低く、頭を守り、動かないの3つの安全行動を実践した。背の高い入居者が、テーブルの下に潜るのは困難等の意見があった。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(16)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	トイレ介助の最中にドアが開いていたり、他者の前で排泄の質問をする等の対応があったが、勉強会を通してプライバシーの意識を心がけるよう努めている	入居者を呼ぶ時は、「さん」付けである。「丁寧な言葉を使い、慣れ合いにならないよう心掛けている。居室に入る時は、ノックし声掛けをしている。失禁時は「ちょっと歩きませんか」等と声掛けを工夫し、トイレ等に誘導をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	こちらから一方的に決める様な支援や介助は行わず、本人に何うことで自己決定を促している		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	無理にこちらのペースに合わせてもらうことはせず、一日の流れの中で、本人の状態や希望に合わせて過ごして頂けるよう努めている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	朝の整容から始まり、衣類が汚れている時は都度交換している。家族から送られた大切な衣類なども、定期的に着用して楽しめるよう支援している		
40	(17)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	野菜切りや簡単な調理、盛り付け、食器洗い、食器拭きなど、本人に出来ることを一緒に行って頂き、本人の生活の場を大切にしている	献立は入居者の要望も踏まえ、職員が作っている。栄養バランス等は保健師に相談をしている。入居者がお好み焼などを作ったり、月1回のテイクアウト弁当の日もある。秋は芋煮会、正月はお節など季節毎の料理を提供している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分量はチェック表で把握している。少ない時は主治医と相談し、補助食品等で補えるよう努めている。毎月食事のメニューを作り、栄養バランスが保てるよう支援している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	個別でチェック表を作成して、口腔ケアに取り組んでいる入居者はいるが、全入居者が毎食後に口腔ケアは行えていない		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(18)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	ミーティングや申し送りで、個別の排泄状態の把握や、排泄用具を検討している。個人の能力に合わせて声掛けや介助を行い、一方的な排泄支援にならないよう努めている	水分摂取量や排尿、排便周期は排泄チェック表で把握している。時間や入居者のそれぞれ様子を見て、トイレ誘導をしている。業者を招き「パッド使用」について勉強会を行い、その人に合ったパッドのサイズ等を学んだ。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	一人一人の食事や水分量を観察し、また、運動への働きかけで予防に取り組んでいます。チェック表を使い、排便の間隔を常に把握しています		
45	(19)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた支援をしている	本人が自己決定できる声掛けを行い、無理な入浴にならないよう心がけている。拒否があれば足浴や清拭で対応し、清潔が保てるよう支援しています	入浴は週2回としているが、希望に応じて毎日入浴する方もいる。脱衣所や浴室は、エアコンで温度管理し、お湯の温度等は入居者の好みに応じている。浴槽マットを使用し安全に配慮している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	表情やバイタルを見ながら必要に応じて休んで頂きます。無理に臥床させることなく生活のペースに合わせて睡眠を促しています		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の情報書を参照する、又は薬局の職員が来所する時に、薬の用法や効能、作用を確認する。職員によって、薬や副作用の知識に差がある		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	コロナ禍の為、外出が難しいが、ドライブや屋外の食事会、行事食などを楽しんで頂く。食事作りなど、本人の出来ることを活かして生活して頂けるよう支援している		
49	(20)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍の為、頻回に外出できないが、近くの公園での散歩やドライブ、屋外で過ごせる場所に出かけることで気分転換を図っている。散歩中は、行きかう人達と挨拶を交わすことで、少なからず交流を楽しめている	天気が良い日は、近所の天沼公園やホーム周辺を散歩している。ホームのワンボックスカーに乗り、リンゴ狩りに行ったり、弁当持参で三神峯公園へピクニックに行くこともある。少しでも外に出る機会を増やし、気分転換を図る工夫をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在、お金の所持を希望する利用者はいないので、個人の買い物は立替で対応している。本人が希望するときは家族と相談し、支援を検討できます		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば、可能な限り電話でのやり取りができるよう支援しています。ご家族からの電話も取り次ぎます。ご家族には月に一回便りを送り、生活の様子をお知らせしています		
52	(21)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感が出る様な飾りつけの制作、行事毎の飾りつけで施設内を彩っています。採光が取れて明るいホールだが、日が入り過ぎないように時期に合わせてカーテンで調整しています	ホールには大きな窓があり、明るく居心地の良い雰囲気である。食事やラジオ体操などをし、入居者の寛ぎの場となっている。七夕やクリスマス等、季節のイベントに合わせた飾りつけをして楽しんでいる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファを置き、食席以外でも過ごせるようにしています。お話し合う利用者や、気が合う利用者、世話好きな利用者など、利用者同士の関係性を見ながら食席を調整しています		
54	(22)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使っていた筆筒、イス、好みの衣類、またお位牌や写真を持って来て頂き、穏やかに自室で過ごせるよう支援しています	電動ベッドやエアコン、洗面台、カーテン、物干し竿が備え付けられている。使い慣れた筆筒や椅子、テーブル、位牌、遺影を持ち込み、家族の写真を飾って自分らしい居室になっている。読書やパソコンをして個々に過ごしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全に立ち上げられるよう、取っ手を設置したり、ベッドにL字柵を使い、夜間の起居動作が安全に行えるよう支援しています。また居室にネームを貼ったり、トイレに表示を掲げる等の工夫もしています		